

諸家官位昇進之次第

9

73  
3573





明 卷 3  
3379



諸家官位昇進之次第

右大臣 正二位 右府

内大臣 正二位 内府

右大将 從二位 羽林大将軍

大纳言 從二位 亞相

中纳言 從三位 黄門

参議 從三位 宰相

正四位 尾紀大纳言之時即嫡子或卿家督三年程 水戸之卿家督即三卿方  
加賀極官

中将 從三位 羽林中郎将

正五位上 尾紀御嫡即初官即三卿方同  
水戸卿家督無程宰相水戸黄門之時即嫡  
井伊掃部頭極官



明治四十一年七月一日  
執行弘道 氏寄



正四位下

加賀家督越前守極官

松越前守重富任之以後例タル事ヲシテス惣テ此位ヲ先達ト  
ス事、從三位任スル例ナレ故也正四位ノ上ヨリハ昇進ナラズ  
事ナリ

從四位上

薩陸奥極官

松薩守吉貴琉球人三度召連ラレ依テ正四位下ニ叙ス

少將

正四位下

羽林次將

水戸卿嫡初官 加賀嫡初官

從四位上

越前家督 高家極官

松薩陸奥勝富二十年未之勤功被任之

從四位下

尾紀卿三男初官極官

松平左京大夫松平拱津守極官

薩陸奥家督

國持十四家

極官

伊達遠江守村候 御代之勤功  
依テ任之格別歟

有馬中務大輔守保四支年七月家督安永元辰十二月任之富家

初而、同中務大輔賴貴室曆八寅十二月四日天明元正月十二日侍從  
同辰家督文化二五月廿八日任之松平肥前守治茂明和寅  
七月未家ヨリ相續四品同八月二月侍從文化元正月十三日任之  
長崎勤番多年之依功也  
文化十四年九月十六日松平越後守克孝鞏養子 將軍家  
御未嘗銀之助殿被遣之旨被仰出十月七日五万石家柄之  
儀府所加増被下置候更定而以後少將ニ可被任且先規  
如御ニ字被下從三位中將ニ可至歟ノ事  
松平阿波守松平土佐守家未任之繼國家テ任之家柄ニ  
テ之場所柄三十年未無勤功者不任細川並因幡家ノ格別ノ  
當年未ニ不抱歟  
松平隱岐守松平下笠守酒井雅樂及溜居之時京都所代  
ト之節、依功任之松平出羽守宗行京都  
所名代被勤三十年未ノ無功ニテ任之  
松平越中守之信天明七未年六月御老中上坐補佐被  
命后寛政五七月御免之時任之代々ノ内、溜詰ト被 命  
松平内蔵頭治政松平安藝守重昌明和九年侍從  
寛政四年十二月任之之時治政ニ安藝守被任之前官ニ付  
被任之間家格、數間鋪首命令ナリ  
文化六己年十月松平阿波守治照任之安永元辰侍從明和  
六己家督依勤功初テ任之



同七寅十月上杉原正大夫所治廣性(教代)内此任断  
天明七侍從又兼前守治憲初因政靜謐(切)采ヲ以テ任之  
即大老 大御前守居 當時關役

侍從

拾遺補闕

從四位上

兼前嫡 初官

從四位下

松平元宗大夫 松平其津守 初官家督三年同少將任  
水戶御二男御三男初官極官  
井伊掃部及松平肥後守松平讓岐守嫡家督  
薩摩陸奥嫡子

細川越中守松平因幡守松平出羽守嫡家督共四品之  
例無之享和二戊申月細川六之助初而 即日見(時)侍從不  
任又前八四品席罷出可申旨令余アリ  
松平大學及 松平播磨守極官 大學及頼貞少將被任  
老功又ハ 有徳公御懇命之品故ト云々

酒詰 即老中 京都所司代 高家肝煎

国持十四家 家督 家柄(依)テ聊不日アリ  
藤室家(家)督タリト云凡 四位ヨリ侍從ト叙爵又少將

任(諸)家ヨリ早シ

松平越後守 極官 松平輝正大將  
伊達遠江守 極官 宗對馬守 極官家督

伊達村候少將(任)松平越後守享保之比早シ依テ家  
格改トイハレ依勤功可任少將欵之矣

文化七年三月有馬中務嫡侍從(任)格別之品以後例欵  
文化七辰十月南部大膳大夫高世万石被 余任侍從松平表  
勤番二月即暇十月恭膺上り後年功(依)テハ可至次將欵  
文化十二年亥年中(リ)奉勤御暇之(上)使向老中成  
文化十四年四月奥平大膳大夫高酒詰被 命侍從(任)ス  
先祖大膳大夫未昌同官位後家格表七代(ニ)テ當官位(ニ)  
後(ル)松平大和守松平隱岐守(小)笠原大膳大夫酒井推業頭  
酒井九門尉柳原下笠守立花左近將監丹羽加賀守夫田  
松平輝正大將南部大膳大夫極官。以下ハ格別ノ勤功ハ無之  
候(ハ)容易ニ不任之

高家初官

從五位下

從四位下

中大夫

四品



尚老中無程仕侍從 所側所用人 大坂所城代

松平大學又 嫡  
榊播磨守 嫡

尾紀所四男初官

享保年中與只梁川領主計頭通奉  
恭寬殿藏所四男也享保元申七月諸大夫同三月四品  
被叙例

国持十四家嫡 但細川因階出羽嫡例也

細川共大浦齊村享和二月初而所見之爵是迄  
家格無之候得共叙爵以前四品序羅出可申旨被  
仰出

<sup>備</sup>松平彈正大阿 嫡  
宗對馬守 嫡  
明石  
榊允近將監松平淡路守松平備後守  
松平甲斐守四品在官也

伊達遠江守 嫡  
但遠村等無用直侍候任人之勤  
功格別之品致勿論初四品  
當振會旨致

松平越中守定信嫡初而初官四位叙為少將嫡子故致  
織田出雲守文化土三月廿日任之右老年迄奉勤文替  
無懈怠貞實相勤候付了家格未古未通被成下候

後三無之其身限り名受ノ旨ナリ  
文化辰二月津輕越中守十刀石高被 今直叙四品

從五位下 朝散大夫

万石以上 但松平和泉守松平遠江守八筆頭ナリ又所後  
相相勤候前嫡子被仰付度

城主嫡 四品以上之嫡 但高家ハ不然

所側眾駿府所城代伏見奉行所留守居  
大町番及兩所番及

所三家所附兩人宛但城主嫡共  
所三所家老

大目付所奉行所勘定奉行所作事所普  
請小普請奉行遠國奉行

但駿府所城番同所奉行佐渡奉行浦賀奉行ハ不然  
西凡所道守居 所小姓 中奥所小姓

所臺樣所中棟所用人 所小納戸及取  
所三家方所家老 加別家老等ナリ

一 松平和泉守及以 任所小普請  
任所小普請所左之通  
嫡左亮 記上之



































李季肥後 有言言義氏 佐布次所

一 赤揚之書 腰綱代宗也 赤月虎牙

伊達遠也

右 赤之八 西永六年二月 日當松本也 松本及上 領少也

一 右 赤之八 松本之松本 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

赤用 赤揚之書 赤之八 松本之松本 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

可平年也

文化三十一 松本之松本 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

廣海船用 文之海驢 片云

一 帝澄 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

虎赤用 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

但兩度合羽令致 由大石 山越枝 限儿 安意常力 令致也 用之奉

一 由大石 山越枝 限儿 安意常力 令致也

國 城 攝家與

右 攝家與 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

但此亦 綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮

右 攝家與

綱代宗也 赤月 滿清和也 赤揚 虎皮



但受賜とて若子若女寺社有り山葵を齋婦に 飯高府  
に 飯高太政大臣の書に同日の事ありと云ふ也  
天保七年二月加賀を以て國司例に 飯高寛政之  
五年 婦初り 所自人知同年正月 婦叙爵に 飯高の  
半の例に 万石以上を以て 例に 寛政六年を以て  
若年若格に 飯高在籍の四例あり

白石古卷考

言家表言示小例に 飯高府の城代 四石を右大臣に 飯高

三家所三所方 四石を

松若志三子 婦子共宗典に 知山若志 亦多し 後 飯高若志  
言ひ 志若と 代若 所自人 飯高 今 向後 例に 志若

文化元年 二月 止 松若志 飯高 志若 志若 志若 志若 志若  
石 新地 九石 石 志若 志若 志若 志若 志若 志若 志若

白石古卷考

文化七年 二月 志若 志若 志若 志若 志若 志若 志若

白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考

一 宗典に 東山及び 時和元 未俗云 所所事とのを以て  
飯高 用ひし 輿に あり 輿に あり 二つあり 飯高 用ひし

一 つあり 用ひし 如く 名附言 年の人用

白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考

白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考 白石古卷考

一 杖第 信長云 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第

杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第

杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第 杖第



御成内百色の借入敷

一 右京近侍七人の内一人お上御宣旨と侍只内一人お上  
四段の通百色下り丸四向列口紙信方足等と  
百色御宣旨の四段人様内也等百色下り

下馬の御宣旨前と

一 押しとる人依百色御宣旨の御宣旨の登城以後の御宣  
敷の御宣旨の御宣旨の御宣旨  
一 小遣御人お申下り  
一 右京近侍七人の内一人お上御宣旨と侍只内一人お上御宣旨  
晴雨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨  
雨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨

三波の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨

年始并 御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨

一 立身持人 百色御宣旨

下馬の御宣旨前と

一 所定人様御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨  
御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨

一 右方持人 御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨

右の通付及赤女白皮紙 御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨  
御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨の御宣旨

文化二年正月

右の御宣旨

井上御宣旨  
右の御宣旨











有喜喜痛 丹國及東 松平修理 松平探取

在集月會之第幾之為持事

右之亦之第幾之為持事

一七松平之死在道

松平修政 松平長政 松平英直 松平遠江  
松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

一松平之死在道 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

右松平表門之長政也 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

一交代會合長政也 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

長政之長政也 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

一表門之長政也 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

松平長政

當時之長政也 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

一右之長政也 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

松平長政 松平長政 松平長政 松平長政 松平長政

松平長政











一 井伊掃部頭家も同様に 井伊掃部頭 一 居るが  
作候し 安後等力も 常力も 高きより 一 候候し

一 初少く 幕十の歳 未だ 好し物

御自見上之 安後 何れも 久しきより 御中へ 進進 御  
番 御子も 同様に 候し 取知 候し 久し 御候 何れも 居候  
法 御對 候し 御使 候し 御自見上 候し 御中 候し

御 御中 候し 御中 候し 御中 候し 御中 候し  
近知 御自見上 老若 御中 候し 御中 候し

但し 御中 候し 御中 候し 御中 候し

一 國家 御使 御使 候し 御自見上 候し 御中 候し

御 御中 候し 御中 候し 御中 候し 御中 候し

御 御中 候し 御中 候し 御中 候し 御中 候し

年 始 八 朔 御中 候し 御中 候し 御中 候し

奉 候 候し

月 日

何 行 候し

在 候 候し 御中 候し 御中 候し

在 候 候し 御中 候し 御中 候し

書 候 候し 御中 候し 御中 候し

右 通 御中 候し 御中 候し 御中 候し

一 御中 候し 御中 候し 御中 候し 御中 候し











半高時之系之始也 室家薩戸之公男 夫為持其終末  
持之の事也

安永四年 松平伊豆守 所目人叙爵嫡と云  
此即乃之持之官人改十一年 公屋乃之嫡子之也

乃持之奉

一 拾万石中 乃持中 嫡子 乃持道長 乃持中

乃持中 乃持伊豆守 乃持道長 乃持道長 乃持道長  
乃持之及也 乃持道長

一 戸田米女正嫡子 乃持道長 乃持道長 乃持道長  
乃持道長 乃持道長 乃持道長 乃持道長

一 安永十三年 松平能登守 乃持道長 乃持道長

乃持道長 乃持道長 乃持道長 乃持道長

乃持道長 乃持道長 乃持道長 乃持道長

一 松平河波守 松平丹波守 乃持道長 乃持道長

乃持道長 乃持道長 乃持道長 乃持道長

但此回 乃持道長 乃持道長 乃持道長 乃持道長

一 乃持道長

松平安永守 松平出羽守 松平隠岐守



























井伊掃部頭  
永井位也

一代のふりかへ

松平慶房  
伊東左松  
丹波如部  
南近江守  
伯耆国守  
永井宗一統

右の足利に欲節友同席を命ずるに  
丹波と松平

清盛の八代同席に持て文化の在るを命ずるに  
松平

一所入の松平居る所を命ずるに  
松平

松平如部  
松平如部  
松平如部  
松平如部  
松平如部  
松平如部

松平如部  
松平如部  
上杉謙信

一口中居るを命ずるに  
松平如部

高村極田所用居るを命ずるに  
松平如部

一牧也家西入保居る文化二年中松平如部  
松平如部

一系極田居る松平如部  
松平如部

一純別八河極田居る松平如部  
松平如部

一外之所入同保居る松平如部  
松平如部

一左同家  
松平如部



家... 牧... 再...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

家... 牧... 再...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...

一 松平... 燈... 燈...























上ノノ系信々

松平如羽の家格

一上代増上守 河系信遠河系信治之長持道具  
守之長持

一上代八右衛門守 同古例持道具 兼長守  
一増上守

信任院持山番守向和東之長守

松平信勝の家格

一上代系信之弟 信洋周布 道具酒後兼門守  
長守

一増上守系信之長 河成之河守 長守後兼門守

上ノノ系信々

一還河後系信平 長守信成守長守

松平越後守の家格

一上代 河系信治之長長守 兼松平系守尚 山石辰  
上ノ約守月之守

一澁守守 山石辰 際近守守

一河系信治 長守 兼松平系守尚 約守近守

一澁守系守 河系信治 山石辰 同守先之守

一中押 山石辰 同守先之守

信任院 河系信治

一長守 兼 松平系守尚 約守之守



一陰軍馬 所成之內石橋ヲ鐵工松東近の事ナリ  
一中押守ノ修ハ河原島ノ事ナリ

松平北後ヲ事ナリ

右白新

右大目守井ノ事ナリ  
一國家兵ノ修テ同席杖某化振ニ後備ニ事ナリ  
右方條ノ後某事度滝城ノ修ニ事ナリ  
右方條ノ家系ノ事ナリ  
一合致杖某事ノ修ニ事ナリ  
此ノ事ナリ  
川ノ事ナリ

掛ノ事ナリ

松平出羽ノ事ナリ  
松平左衛門ノ事ナリ  
松平右衛門ノ事ナリ  
松平左衛門ノ事ナリ  
松平右衛門ノ事ナリ  
松平左衛門ノ事ナリ  
松平右衛門ノ事ナリ  
松平左衛門ノ事ナリ  
松平右衛門ノ事ナリ

一合致杖某事ノ修ニ事ナリ  
此ノ事ナリ

對馬ノ義實文化九ノ事ナリ  
此ノ事ナリ

一尾ノ事ナリ  
松平出羽ノ事ナリ  
此ノ事ナリ



一 家督の長家督三人 所自身人等與之 所建好方家  
 督之長人 所自身人等與之 所建好方家  
 一 成集集人正所寫卷為目録内所建好方家  
 一 十石石中所有内所寫卷内之反功布多中督痛  
 一 寛永大文年 松平鐵花等平島代令故校若所欠賀取  
 一 寛永十三年 未青十月三日 松平鐵花等治長基田家卷中  
 任出對中陰授策方持之任 任出内和文 十月十日 又前卷  
 任出 瑞正柄中十年 策初切身危皮靴履 并打打の持  
 一 松平徳政等天明辰年中何と云 所取少人知如事  
 一 寛永十三年 任出事

草校等兼 居居發及所 十月の如何云 水邊 山々  
 策方之及外 所用中 任出 中 御所二重年  
 校策之 四故 中 任出 事  
 附系極花 任出 策策并 草校是 令故 松平徳政等  
 對策才及御 中 任出 令故 事  
 一 河之家所 氏是女所方他 山邊 如何云 故  
 一 公故 策策 浪 中 故 年 始 所 後 併 山邊 中 何と云 事  
 一 文化三年 七月九日 鐵花等 治長 松平 在 信 督 中 何と云  
 一 會 任 出 事 如 其 初 重 慶 修 履 發 任 出 事 如 右 何と云 事  
 一 燒 守 上 何と云 事 如 其 中 何と云 事 如 其 中 何と云 事

非田治上何と云 事 如 其 中 何と云 事 如 其 中 何と云 事



















一 山之高方以屋形月出方... 德及人書 瑞一

一 純尾... 浪可... 所封... 另伏...

進

一 水... 白浪... 三...

一 寬政... 純州...

日新...

一 同年八月... 山致...

右... 官...

一 延喜... 八月... 八月...































一 此山... 侍人... 一 兩...

但... 拈... 侍...

一 公家... 一 此...

一 中... 散... 同...

一 百...

人...

但... 拈... 之...

一 百... 万...

但...

一 大... 城...

...

一 此山... 侍人... 一 兩...

但... 拈... 侍...

一 公家... 一 此...

一 中... 散... 同...

一 百...

人...

但... 拈... 之...

一 百... 万...

但...

一 大... 城...

...







一 山物形似可名之者 表之家 表命小 表法之 而  
 大紙山字日 物之月代判 下  
 一 山物代元 同並 德書民 德物 德及人 山書元  
 月代 年 月代判 下

一 大書元 所 有 法 家 如 此 一 事

一 所 之 例 有 德 出 任 德 元 之 相 之 德 出 任

二 月 月 德 出 任 二 月 月 万 石 分 下 而 四 月 月 万 石 分

六 月 月 德 出 任 二 月 月 万 石 分 下 七 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

八 月 月 德 出 任 九 月 月 德 出 任 十 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

十 月 月 德 出 任 十 二 月 月 德 出 任 十 三 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

十 四 月 月 德 出 任 十 六 月 月 德 出 任 十 七 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

十 八 月 月 德 出 任 十 九 月 月 德 出 任 十 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

十 一 月 月 德 出 任 十 二 月 月 德 出 任 十 三 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

十 四 月 月 德 出 任 十 五 月 月 德 出 任 十 六 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

一 大 綱 之 概 德 元 之 節  
 一 德 出 任 之 事 病 疾 知 少 隱 居 而 老 中 也

二 月 月 德 出 任 三 月 月 德 出 任 四 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

五 月 月 德 出 任 六 月 月 德 出 任 七 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

八 月 月 德 出 任 九 月 月 德 出 任 十 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命

十 一 月 月 德 出 任 十 二 月 月 德 出 任 十 三 月 月 德 出 任 德 及 人 表 命











抄所口名如左

一 令改回式五年十二月十日相解人對列也

付彼地

一 全拾枚  
時辰二  
羽織

柿大寺  
井上  
柳三

一 全拾枚  
羽織  
時辰二

一 全拾枚  
羽織  
時辰二

同三月 廿三

一 全中枚 時辰十 河馬一疋

小笠原大膳  
板坂中督

一 全三枚 時辰又 羽織

一 同午年十二月十日小笠原大膳更相解人未解返及  
延引使

全三枚 時辰又 羽織

在青山



口至月廿三日板坂中督

右相解人未解返及

同收中督



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.





